

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価報告

日時：令和7年3月28日（金）13：30～15：00

場所：長野工業高等専門学校 第2応接室

1. 学内からの視点

（1）プログラムの履修・修得状況

本プログラムリテラシーレベルの対象科目はすべて必修科目である。プログラム履修・修得者は、編入学生を除き、100%である。応用基礎レベルの対象科目は、AI実践1科目（選択科目）を除いて必修科目である。当該選択科目について令和6年度の履修者は出ていないが、その他の対象科目の履修者は、編入学生を除いて100%である。

（2）学修成果

対象科目の履修者は単位を修得し、各科目で学んだ内容を身に付けている。なお、学んだ内容は、上級学年の授業（卒業研究を含む）や様々な活動で活用されており、目標は達成されていると考えられる。

（3）学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

授業改善への取り組みとして授業評価アンケートを実施している。アンケートでの設問「授業を受けてこの分野の理解が深まりましたか」に対して、いずれの科目も肯定的な回答が多く、理解度について全体としては適切であると考えられる。

（4）学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

アンケートの設問「授業の内容に満足していますか」に対して、「強く思う」「そう思う」という回答の割合がいずれの科目も多い。本校では、上級生のTAが後輩学生に学習指導を行う機会もあり、学習することの必要性が学生間で広がることも期待される。

（5）全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

リテラシーレベルについては、対象科目が4年生までの必修科目でのカリキュラムとなっており、編入学生を除き100%の履修率となる。応用基礎レベルは、一部選択科目を含むが、データサイエンス系科目の充実により、履修率向上が見込まれる。

2. 学外からの視点

（1）教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

令和5年度卒業生が、本プログラムリテラシーレベル修了の1期生であり、令和6年度が2期生となる。就職先は、いずれの年度もデータサイエンスを取り扱う企業がほぼ100%、進学先も工学系が中心であり、学んだ内容を生かせる分野に進んでいる。令和6年度には企業に対するアンケートを実施しており、入社時における本校卒業生の「数学・自然科学・情報技術などの基礎的な知識の素養」および「社会的な倫理観」について、普通以上との回答がほとんどを占めるという結果が得られている。

（2）産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

以前より学科改組に伴うデータサイエンス科目群の設定に対して期待する意見が寄せられており、産業界からも引き続き教育の充実が求められている。企業アンケートからも、工学分野の必要な知識として「数理統計」が挙げられている。

3. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

対象科目の授業評価アンケートにおいて、「将来の自分に必要かどうかを考えることができたか」という質問に対して、「強く思う」「そう思う」という回答の割合が、いずれの科目でも引き続き高い水準を維持しており、数理・データサイエンス・AIの知識の必要性は、十分理解しているものと考えられる。

4. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

対象科目の授業評価アンケートについては、授業の難易度や説明の仕方に対する評価が高い水準を維持していることから、「分かりやすい」授業を実施できているものと考えられる。教員による授業の相互参観等を通して授業改善に向けた取り組みを継続している。

出席者：松下教育改善委員長、楡井総務主事、
濱口教務主事、齊藤教務係長